



第9図 稚内風速と海上風速(海域別)の関係と海区

2) 日本海側・オホーツク海側沿岸海域

宗谷・利尻・礼文島周辺では、北・東・西系風が2.4倍と大きく、海岸に沿って北上する南風、または利尻水道を北上する南風の増大が見られる。なおオホーツク海側沿岸でも、同様に、海岸線に沿って吹走する南風が、60~70%の増比となり、沿岸を離れるほど、増比が小さく、10%前後となる。しかしこの風系は、春一夏であるので、この期間沿岸で操業する小型船の注意が必要である。

3) 宗谷海峡北部海域と南樺太周辺海域

この海域も、東よりの風の増比が大きく、海区によっては、2.0~2.5倍の増となり、西風も50~90%増である。しかし北・南よりの風は小さく、とくに南よりの風では、稚内風速より逆に20%前後弱いことが特筆される。

また樺太西海上では、観測数が少なく、不確実であるが、沿岸に近い海区では、北よりの風の増比が大きく、南風とともに1.5~1.6倍、沿岸より離れた海区では、西風が70~80%増となり、東風の小さいのは勿論である。なお各海域別の増比は第9図に示す。

6. あとがき

以上稚内を中心とした、近海の漁船海難について記したが、海難時における現場海上での、風、波浪、うねりの状態などの実状を把握することが極めて困難な現時点では、あくまでも、各資料から、気象・海況を推定、予想することより出来ないが、各方面からの各種資料の収集と、考察調査が必要であろう。

文 献

成田月昶・増山良作, 1956: 稚内の地形による風向変位, 研究時報, **7**, 12号, 797-799.  
 成田月昶, 稚内の気象特性, 天気, **6**, 10号, 319-324.  
 成田月昶, 1963: 稚内における日最大風速起時と宗谷海域の海難, 天気, **10**, 3号, 69-74.  
 宮内駿一・成田月昶, 1972: 日本海北部を通る寒冷渦による突風, 天気, **19**, 7号, 350-358.  
 八十科洋, 1972: 稚内一離島間定期航路の欠航について, 北部管区気象研究会誌, 昭和47年度.  
 今井正紀, 1973: 北見枝幸における冬の強風について, 北部管区気象研究会誌, 昭和48年度

会員の広場

「天気」にひと言

「天気」を手にとりてまず感じることは表紙である。大変アカ抜けしており、学会誌としては一流だと思う。つぎに、編集については、あまりにぎっしり詰まりすぎているように感じる。論文やら解説やらと1行の無駄もないような編集ぶりである。うっかりしていたら、ひとつの論文と次の論文との切れめを見落とすこともある。予算面で苦しいことはわかっているが、それはそれとし

て、少しぐらいは無駄なページ——毒にも薬にもならない記事——があったがよい。慾をいえば、学会と関係のある漫画やコントなどもほしいが、そんな才能のある人は学会にはいないだろう。要するに、ビタミンやカロリーばかりなく、食慾をそそるような食器や膳立てに気を配っていただきたいわけである。

学会記事・会議報告などあまり興味を感じない、といっても学会誌の性格上、記録を残すという意味で必要なのかもしれない。そうであれば、なるべく短かく縮めてほしい。

(166頁に続く)

し、また、海の影響が気候に大きく影響していることはよく知られている。割合狭い範囲ではすでに幾つかの研究が行われているが、地球的スケールで解析をすすめる必要がある、これには海洋観測資料の国際交換がまず問題となる。また、数値実験によるモデル実験も重要であろう。

季節予報は非常に難しい。異常気象が問題になっている今日は、その重要性がますます大きくなり、研究の進展が望まれている。しかし、問題の性質上、あまりいそいで枝葉のことにとらわれず、じっくりと資料の整備を行い、基礎的な問題を解明していくことが、結局早道ではなからうか。

## 文 献

- Adem J. 1964: On the physical basis for the numerical prediction of monthly and seasonal temperatures in the troposphere-ocean-continent system, *Monthly Weather Review*, 92, No. 3.
- 朝倉 正, 1956: 太陽活動と気象, 気象研究ノート 7, 289-315.
- 荒川秀俊, 1943: 天気分析, 上巻, 地人書館.
- 荒川秀俊, 1943: 東北凶冷の新予報法, 海と空, 23, 433-436.
- 安藤広太郎, 1915: 東北地方に稲の凶作を誘致すべき夏期低温の原因及びそれが予報に就きて, 気象集誌, 34年, 387-395, 484-503, 587-591, 641-650.
- Blinova, F.N. 1957: Long-range forecasting (Part II, of Hydrodynamical methods of short and long-range weather forecasting in the U.S.S.R.) *Tellus*, 9, No. 4.
- 福田喜代志, 高橋亮一, 1942: 夏季天候 相関の一例, その1, 東北地方凶冷と海況との関係に就いて, 気象集誌, 20, 35-38, 432-433.
- Humphreys, W.J. 1928: *Physics of the Air*, Mc. Graw-Hill.
- 気象研究所予報研究室, 1955: 火山爆発および水爆実験と気候異常, 気象集誌 33, 101-116.
- Martin, D.E. and Hawkins, H.F.J., 1950: Forecasting Weather, The Relationship of Temperature and Precipitation over the U.S. to the Circulation Aloft. *Weatherwise*, 3, 16-19, 40-43, 65-67, 89-92.
- 森田 稔, 1943: 東北凶冷の予想に関する研究, 大後美保編, 産業気象の研究, 第一輯, 1-36, 共立出版.
- 中田良雄, 1943: 気温の週期的変化に関する研究, 中央気象台彙報, 24, 1-18.
- Namias, J. 1953: Thirty-Day Forecasting, *Meteorological Monographs*, 2, No. 6, Amer. Met. Soc.
- Okada, T. 1915: Some Researches in the Far Eastern Seasonal Correlations, *Jour. Met. Soc. Japan*, 34, 19-36.
- Okada, T. 1919: On the Possibility of Forecasting the Summer Temperature and the Approximate Yield of the Rice Crop for Northern Japan, *Bull. Cent. Met. Obs.* 2, 1, 19-32.
- Okada, T. 1934: 東北地方凶冷の原因, 天気と気候, 1, 338-342.
- 関豊太郎, 1907: 東北の凶冷と沿岸潮流との関係に就きて, 官報, 4月15~16日.
- 関原 彊, その他, 1957: 太陽面現象から地球上の気象現象まで, 気象研究ノート, 8, 228-277.
- 高橋浩一郎, 1956: 季節予報について, 気象研究ノート, 7, 205-238, 253-288.
- 和田英夫, 1969: 長期予報新講, 地人類館.
- Walker, G.T. 1909: Correlation in Seasonal Variation of Climate, *Memoirs of the Indian Meteorological Department*, 20, part. 6,
- Willett, H.C., 1949: Long Period Fluctuations of the General Circulation of the Atmosphere, *J. Met.*, 6, 34-50.
- W.M.O. Technical Note, No. 66, 1965: W.M.O. I.U.G.G. Symposium on Research and Development aspects of Long-range forecasting.

## (会員の広場 203頁の続き)

学会費が前納になったが、こんな経済情勢ではやむを得ない。それより会費を滞納している人がいるのはいただけない。昔のお偉方には、“会費を払込むのが面倒で

——”とかいって会費の滞納を公言していた方がおられたことを思い出す。こんなムードはいけない。

(福岡管区気象台 小島隆義)